

## ◇ 国 語

国 4-1～国 4-15 まで 15 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いまの社会は知識信仰というべきものによって動いていると言ってもよい。知識を身につけるにはあらゆる努力をいとわない。だいいち、そのためには何かをすてることを惜しいとは思わない。

学校はそういう知識を与えるところで、社会から特別扱いをされている。学校はあらゆるものを犠牲にして、知識の学習を目ざす。

朝から午後、帰るまで、知識のための学校は勉強ばかりである。さすがに、昼の食事はするが、これを教育のイッカンだと教える学校はどこにもない。

(二) こどもたちは、生活を停止して、学習に全力を注ぐことを求められる。まっとうなこどもにとって、それが、おもしろいわけがない。なにかこどもらしい生活をしたと思うても、学校も家庭も許してくれない。それで反発して非行に走るこどももある。学校はそれを「落ちこぼれ」のように考え、それを非人間的とも思わない。このことを、近代の教育は反省することがない。

明治の話だが、日露戦争のあったことも知らず、勉強、研究した学者がいて、世人はそれを学問の権化のようにたたえた。象牙の塔では、そういう人たちによって守られると誤解した。生活がすくなくないほど人間として価値があるという考え方である。<sup>(三)</sup>象牙の塔には生活がなくて、ただ知識の残骸あるのみ、ということ<sup>B</sup>をケイモウ期の社会は知らない。おくられているのである。

徹夜で勉強するのは、体によくない、とか勉強の効率がよくない、などととは考えないで美化する。わけもわからず、こどもや若者が、必要もない徹夜の勉強をして得意になり、まわりはそれを悪いとは考えない。

大人も生活を否定することが、知的であるような錯覚をもっている。昼の間、ぶらぶらして、夜になると、机に向かつて、原稿用紙を埋めることをえらいことのように考える文士、文士志望者が、病に倒れると、名譽のクンショウのように見る常識が生まれて、あたら才能を失った人があらわれる。

学問や芸術を志すものは、モノやカネのことを考えるのは不純である——そういう通念にしばられて、破滅型の人間を美化す

る。文学青年がそうして（四）霞を食うような生き方を考える。ケンジツ（五）な生活をする人たちは内心、おかしいとは考えながらも、知識信仰に遠慮してその害に思い及ばない。

人間は知識のために生きるのではない。よりよく生きるためにある程度の知識、技術が必要なのである。知識追求、知識尊重の考えにとりつかれてみると、人はそのことを忘れるらしい。生きるために知る必要があることを無視して、知るために生きるのが高等だという、おかしな考えにとりつかれ、それが死に至る病になることも知らぬかのようなものである。

役に立つかどうかも考えない。知識は、もともと、そんなにありがたいものではない、いくら知識が多くても、充実した人生を生きることができるといふ保証はない。知識の量的価値はあまり大きくない。もの知りは、たしかに、便利で、世の中に必要とされることはあるが、本人にとって、りっぱに生きる助けにはならないことがすくなくない。生き字引きというのは、ヨーロッパにもあるようだが、人間は辞書として価値があるのではなくて、生きているから価値があるのである。

知識を身につけるためには、記憶力がよくなってはならない。知的エリートはみな記憶の秀才である。つまらぬことをいつまでも忘れなければ、優秀な頭脳と賞賛されるから、記憶のいい人間は、自分は頭がいい、とうぬぼれることができる。他方、片っぱしから忘れるザル頭は、バカのようにさげすまされ、本人も自信を失って、本当のバカなようになることもある。記憶人間は忘却ということを認めず、何もかも一緒に覚えたに覚えこむことを ア のように誇る。

知識信仰に風穴をあけるものがあらわれた。コンピューターである。二十世紀中ごろのことで、すでに半世紀以上たっているのに、コンピューターの人間に及ぼす影響ははつきり自覚されていない。

コンピューターは記憶の巨人である。知識や情報の収集にかけて、人間など足もとへも及ばない。とりわけ、知識の記憶にかけては文字通り超人的存在である。どんな記憶のよい人も、コンピューターと競争することはできない。

知識的人間は、当然、ショックを受けなくてはならない。しかし、知ることではできても考えることのできない（五）コンピューター人間はのんきに半世紀を生き続けてきた。

このごろ、就職難がひどくなり、社会のヒズミのように考えられているが、つまり、コンピューターに仕事を奪われているのだという認識がないのは不思議である。

知識の断片をつめこんでだけで、ロクに働きもしなければ、努力もしない。それでいて不平、不満たらたらといった学校出を採用するより、コンピューターを導入した方が **イ** である。コンピューターは不眠不休で働き、文句も言わなければ賃上げ要求をしたりもしない。福利<sup>ウ</sup>コウセイのカネもいらなければ、年金積立ての必要もない。人間よりコンピューターだと考えるのは当然である。気の弱い経営者が、そこまでは踏み切れないから、コンピューター人間は助かっている。コンピューター人間はつきりコンピューターより **ウ** である。

生活に心をわずらわすのは、仕事人、職人にとって不純であるというような生き方は昔からあった。それは仕事をするのは人間しかいなかったときのことである。仕事専一であれば、生活はなくなる。かつては生きることとは仕事をすることなりと割り切ることができた。

コンピューターがあらわれると、事情は大きく変わってくる。人間がいくら、よく働いても、完全に不眠不休で働くキカイの敵ではないことがやがてわかる。仕事の処理の能力だけを問題にすれば、単純な事務処理だったらコンピューターに負けない人間はないと言ってよい。人間には生活がある。それは仕事ではないが、人間の生きる実体である。コンピューターは生活をもつことができない。

生活にかけては、人間は、すべてのものよりすぐれている。それをないがしろにして、機械でもできる仕事のみのために生きるのはいくなくとも、現代において賢明とは言えないだろう。

近代教育は、仕事第一主義の時代、社会において生まれたものであるから、機械的な仕事のために人間的生活をないがしろにすることをむしろ誇りにしたところがある。仕事さえできれば人間としての力が不足していても高く評価する。生活から縁が遠ければ遠いほど価値が高いという専門尊重の思想を生む。一芸に秀でていけば、人間としての欠点があっても、 **エ** となることができる。

(外山滋比古『知的生活習慣』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A イツカ|ン

- ①教室でキカ|ン巡回する
- ③弾丸がカ|ンツウする
- ⑤消費者へカ|ンゲンする

②カ|ンケツに表現する

④衆人カ|ンシの的になる

1

B ケイ|モウ

- ①神のケイ|ジを受ける
- ③ケイ|ヤクを結ぶ
- ⑤ケイ|ガイ化した慣習

②ケイ|フクに値する人

④ケイ|リヤクが成功する

2

C クンシ|ョウ

- ①シ|ョウキンを受け取る
- ③確かなシ|ョウサを示す
- ⑤学問をシ|ョウレイする

②交響曲の第一ガクシ|ョウ

④人間国宝のシ|ョウゴウ

3

D ケン|ジツ

- ①ケン|メイの救助活動
- ③セン|ケン|の明がある
- ⑤チュウ|ケン|企業に就職する

②ケン|リを主張する

④精進の前にはケン|グなし

4

E コウ|セイ

- ①漢方薬のコウ|ノウ
- ③約束をリコウ|する
- ⑤コウ|キョウ料金を払う

②コウ|ガン無恥な人

④プログをコウ|シンする

5

問二 空欄

ア

イ

ウ

エ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選べ。

ア

- ① 反実仮想
- ④ 博覧強記

- ② 温故知新
- ⑤ 大義名分

③ 大悟徹底

6

イ

- ① 合理的
- ④ 画一的

- ② 積極的
- ⑤ 普遍的

③ 実証的

7

ウ

- ① 非現実的
- ④ 非人道的

- ② 非生産的
- ⑤ 非論理的

③ 非社会的

8

エ

- ① 一般的
- ④ 独創的

- ② 芸術的
- ⑤ 逆説的

③ 天才的

9

問三 傍線部（二）「こどもたちは、生活を停止して、学習に全力を注ぐことを求められる」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

10

- ①現代の教育現場においては、世間一般の感覚とは異なり、知識の習得をことさらに重視する傾向があるため
- ②近代教育では、学習習慣を身に付けることによって規範意識や行動力が獲得できると信じられていたため
- ③現代社会では、様々な物事を知りそれを記憶することにこそ意味があるという観念が根付いているため
- ④学校でも家庭でも、こどもらしい生活を意図的に遠ざけることが知識の定着につながると誤解しているため

問四 傍線部（二）「学問の権化のようにたたえた」とはどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

11

- ①「学問」が社会において権威を持つ存在にまで成り上がったとして賛美したということ
- ②「学問」を志す者が陥りがちな愚行を反面教師的に示したものととして注目したということ
- ③「学問」という抽象的なものが目に見える形になって現れたととして称揚したということ
- ④「学問」の先駆者としての姿勢を象徴する行動であるとして高く評価したということ

問五 傍線部(三)「象牙の塔には生活がなく」とはどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 学校という特殊社会においては、人間の生活リズムを無視した時間割が組まれているということ
- ② 学者たちの属する閉鎖的社会においては、人間らしい生活が軽視されているということ
- ③ 一般社会においては、仕事のために私生活をなおざりにする傾向が強く見られるということ
- ④ 戦争という極限状況においては、人間らしい生活を送ることが甚だ困難であるということ

問六 傍線部(四)「霞を食うような生き方」とはどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ① 俗世間を超越して収入もなしに暮らす生き方
- ② 自分からあえて実現困難なことに挑戦する生き方
- ③ 目には見えない真実をとことん追い求める生き方
- ④ のるかそるかの一発勝負で利益を得ようとする生き方



問七 傍線部(五)「コンピューター人間」とはどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

14

- ①コンピューターのように優れた記憶力を持ち、不眠不休で働き続けることができる超人的な人のこと
- ②コンピューターと同じように、何をすべきかを指示してくれる他者がいなければ生活できない人のこと
- ③コンピューターに匹敵する知識と情報処理能力を持ち合わせ、何事に対しても常に冷静に対処する人のこと
- ④コンピューターと同じように、幅広い知識を取り入れる一方でそれに基づく有効な判断や行動ができない人のこと

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

15

- ①現代社会においては記憶力のある者や一芸に秀でている者が尊重されるが、それよりも重要なことは人間らしく生きるということである。
- ②日本では、古来より知識の習得がもつとも重視されており、そのためには生活を犠牲にしてもかまわないという思想が現代にまで根強く残っている。
- ③学校現場で習得する知識は、人間がより良く生きる助けにはならないことがほとんどであり、知識が世の中の役に立つという認識も実はまやかしかである。
- ④知的エリートは優れた創造性を持っているが、うぬぼれに陥りやすく、自分よりも記憶力に劣る他者をさげすんでバカにする傾向がある。
- ⑤現代社会においては、機械的な仕事に人生をささげようとするよりも、様々な娯楽に目を向けて生活を楽しもうとする方が賢い生き方だといえる。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

電話は、一八七六年（明治九年）三月十日、アメリカ人のアレキサンダー・グラハム・ベルによって発明された。

翌年十一月には、早くも電話機が日本に輸入され、それは、アメリカにとつて商品としての電話機の輸出第一号であった。

二台の電話機が横浜のパヴィア商会の手をへて輸入されたのだが、これが工部省という商工業指導の役所に納められた。

この電話機は、英語そのままに「テレフォン」と呼ばれ、新聞などでは「伝話機」という呼び名が用いられていたが、やがて「電話」という名にトウイツされた。

最初に電話が使用されたことについては、さまざまな説があるが、電話を輸入した工部省と築地電信分局（後の電信中央局）との間で、明治十年十二月ごろ試用されたという説が有力である。

その後、工部省では、ベル発明の電話機にならつてモゾウ品をつくり、明治十一年に二台、十二年に六台と、その数も徐々に増していった。もっぱら役所間に電話線が架設され、迅速な連絡を必要とする警察関係でも採用された。

電話で、私たちは最初に「もしもし」と言う。ふだん使っているのでもなんとも思わないが、考えてみれば ア である。しかし、最初に使用されたのが役所と役所の間であったことから、その理由を知ることができる。

明治維新後、役所にとめる吏員は武家またはそれに準じる人々が多く、電話の第一声として、「もうし、もうし、そこを行かれる方」

などという武家の使った呼び名のもうしという言葉から、「もし、もし」という言い方が使われ、それが百年以上もたった現在でも使われているのである。

このように、電話は官庁間の連絡に使われていたが、明治二十二年一月一日には、東京電信局と熱海電信局間で、民間人の電話通話がはじめられた。

五分間の電話料は十五銭で、だれと話したいかをあらかじめ東京の本局につたえておくと、本局では、相手の人に連絡する。しかし、その人が九町以内の地にいれば五銭、十町から二十町までの間にいると十銭と、距離が遠くなるにしたがつて増額する仕組みになっていた。

通話したい者同士、それぞれ定められた時刻に電信局に向いて来て、受話器を耳にあてたのである。

このような面倒な方法でしか通話できなかった<sup>(二)</sup>ので、利用する者はほとんどいなかった。

電話交換局がもうけられ、それを機に電話機を設置するよう主として商人たちを大いに勧誘したが、東京でそれに応じた者はわずかに二百十五人に過ぎなかった。

日露戦争後、実業界が<sup>(三)</sup>にわかに活気づいて電話の需要が急に増した。と言つても、それは、政治家、財界人など特権階級の人に限られ、一般人が互いに連絡をとり合うのは、書簡、葉書による方がはるかに格安で、電話を利用する者はごく少数であった。

大正期に入つて、ようやく電話はわずかながらも普及し、官庁をはじめ、ことに警察関係や新聞社には不可欠のものとなつてきた。

大正十二年九月一日に発生した関東大震災は、東京とその周辺地域の電話機構を潰滅<sup>(四)</sup>させた。

電線はすべて焼け、電信柱約六万本が焼失、または転倒した。

警視庁では、内務省にイライして飛行機を飛ばして大阪府と連絡をとり、駆逐艦「川風」に電話線二十マイル分をのせて芝浦にとどけさせた。また、電柱は群馬、福島両県からとり寄せ、各警察、消防署等の電話線架設につとめたが、十月十日に至つてもその五分の一の復旧をみたにとどまった。

電話局の大半は全焼、大破し、電話が復旧するまでには三年を要した。

昭和に入り、電話は一般家庭にも徐々に普及していった。

電話機の横についている細いハンドルをまわすと、電話交換局が出る。交換手は女性で、通話を申し込むと、相手の電話機につないでくれる。

そのうちに自動ダイヤル式になり、ダイヤルをまわして相手と通話ができるようになった。

イ、一般には電話のある家は稀<sup>(五)</sup>であった。

私の生家は、綿糸紡績とふとん綿製造を業とした商家であつたので、帳場（事務所）に初めは一本、ついで一本増やして二本の電話があつた。番号も不思議なことに鮮明に記憶していて、根岸局の四一八一番と四一八二番であつた。

むろん、主として商用に使つていたが、呼び出し電話がかかってくることもあつた。近所に住む人と電話で話したいことがあ

るので、呼んできて欲しい、という。近所に住む人は、封筒や名刺に(呼)として、私の家の電話番号が記してあった。

呼んできてくれと言われても少しも迷惑とは思わず、母に命じられて私は、その家に走ってゆき、

「電話です」

と、つたえる。

私はその人と一緒に家まで走ってもどるが、見知らぬ人もかなりいた。

地方への通話は、申し込み制になっていて、余り眼にしたこともない人が来て、電話を貸して欲しいと言って電話局に申し込む。

電話が通じるまでにはかなりの時間がかかるので、その人は帳場の椅子に座ったりして待つ。母がチャカ<sup>カ</sup>などを出して世間話をし、ようやく通じると、その人が受話器を耳にした。

なんとも悠長な話で、そのように<sup>三</sup>近所の人に電話を使ってもらうことが、電話のある家の義務であったのである。

ウ、戦争がはじまり、大規模な空襲があつて、東京の大半はシヨウド<sup>E</sup>と化した。

焼跡で、奇妙なことをしている男の姿を眼にするようになった。電柱が焼けてわずかに焦げた頭部が点々と地表からのぞいていたが、男は土中に残された電柱を掘りあげているのである。

それは、かなりの労力を必要としたが、掘りあげられた部分は、想像以上に長く立派で、それが土中に埋めこまれていたのを知った。男はそれをついでその場をはなれていったが、貴重な薪<sup>たきぎ</sup>にして売っていることを耳にした。

近時、電話機は目まぐるしく改良されている。

小説を書く私は、電話をかける描写でダイヤルをまわし、と書いていたが、今ではプッシュボタンを押し、としなければならない。「ダイヤルMを廻せ」などという題の洋画があつたが、今ではそのような題では通用しない。

携帯電話の普及はすさまじく、それを耳にあてて歩く人は多い。今後、どのように進化してゆくのか、予想もつかない。

しかし、電話機がどのように改良されていっても明治初期に電話が輸入された時、<sup>三</sup>「もしもし」と言った呼びかけ言葉がそのまま残っているのが、面白い。

(吉村昭『事物はじまりの物語』による)

問一 傍線部 A・B・C・D・E と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A トウ|イツ

- ① ブトウ|カイ に参加する
- ③ 宝くじにトウ|セン する
- ⑤ トウ|セイ のとれた動き

② 列のセントウ|を一人歩く

④ 大会でのケントウ|を析る

16

B モゾ|ウ

- ① 小学校の裏はゾウ|キ林だ
- ③ 機械のカイゾウ|が趣味です
- ⑤ 利用者のゾウ|カ に対応する

② 旅行の写真をゲンゾウ|する

④ 図書館のゾウ|シヨ を調べる

17

C イ|ライ

- ① 携帯電話にイ|ソン する
- ③ 彼女のイ|ケン を聞こう
- ⑤ 彼らが図書イ|イン です

② 古代のイ|セキ を調べる

④ 窓側の席にイ|ドウ する

18

D チャ|カ

- ① 富士山がフン|カ する時期を予測する
- ③ カ|コ を振り返るのは無意味なことだ
- ⑤ アイスクリームはヒョウ|カ とも言う

② まだカ|ダイ が残る

④ テン|カ 泰平の時代

19

E ショウ|ウド

- ① 僧のド|キョウ の声
- ③ オン|ド|ケイ を壁に掛ける
- ⑤ ド|レイ 解放運動の歴史

② ド|ヨウ の丑しの日

④ ド|ゴウ がとびかう

20

問二 空欄

ア

イ

ウ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 真面目
- ② 不思議
- ④ 理想的
- ⑤ 間違い

③ 不可分

21

イ

- ① なぜなら
- ④ むろん

- ② さらに
- ⑤ しかし

③ ゆえに

22

ウ

- ① やがて
- ④ すなわち

- ② 一方で
- ⑤ あるいは

③ もちろん

23

問三 傍線部 (a)・(b)・(c) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) へて

- ① 加えて
- ④ こまねいて

② 經由して

⑤ 離れて

③ 回避して

24

(b) 準じる

- ① 対立する立場である
- ③ 同等な立場である

- ② 気軽な立場である
- ④ 劣った立場である

⑤ 賛同する立場である

25

(c) にわかに

- ① 徐々に
- ④ 突然に

- ② 華やかに
- ⑤ おごそかに

③ 軽妙に

26

問四 傍線部（二）「利用する者はほとんどいなかった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

27

- ①電話をかける時は電話交換手を通さなくてはならず、その手続きが面倒に感じられたから
- ②電話をかける側と受ける側の両者が、通話時刻に電話局に行かなくてはならなかったから
- ③手紙や葉書による連絡の方が、電話よりも丁寧な印象を与えられると考えられていたから
- ④関東大震災による被害が大きく、東京とその周辺地域の電話機構が潰滅してしまったから

問五 傍線部（二）「近所の人に電話を使ってもらうこと」とあるが、その内容に当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ①私の家の電話番号を、近所の人とその知人に公開すること
- ②電話がかかってきたことを、近所の人に知らせに走ること
- ③電話が通じるのを待つ間に、世間話などしてもてなすこと
- ④近所の人、安い料金で電話が使えるように配慮すること

問六 傍線部(三)「もしもし」と言った呼びかけ言葉がそのまま残っているのが、「面白い」とあるが、なぜ「面白い」のか。  
説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 「もしもし」という電話の呼びかけ言葉を、由来も知らないまま使っているから
- ② 電話機は大きく変化したけど、「もしもし」という言葉は変化せずに残っているから
- ③ 言葉の由来を知ることによって、「もしもし」が「もうし、もうし」と聞こえてくるから
- ④ どの地域に住む人も電話では、「もしもし」という呼びかけ言葉を使っているから

29

問七 本文の内容と一致しないものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 電話が日本に輸入された当初は、電話線が引かれたのは役所や警察関係などであった。
- ② 日露戦争後に電話の需要が急に増えたが、それは電話料金が安くなったからであった。
- ③ 昭和になっても電話のある家は一般的ではなく、地方への電話は申し込み制であった。
- ④ 電話機の改良にともない、電話する姿を小説で描写する場合にも変化が必要になった。

30